

# がん診療 あさひ

13号  
2023年11月  
発行

～がんと診断されたり、治療を受けるときに、役立つ情報をまとめました～



遺伝子診療科スタッフ

## 遺伝子診療科のご紹介

遺伝子診療科では遺伝学的検査や遺伝カウンセリングなど、遺伝性の病気について詳しく知りたい方、遺伝に関するさまざまな悩みや不安を抱えている方を対象に、適切な医療情報の提供、遺伝学的検査の検討、心理社会的なサポートおよびケアなどを行っています。状況に応じて担当診療科の医師にも同席いただく遺伝カウンセリングを行う場合もあります。

また、近年保険適応となった遺伝学的な検査によるコンパニオン診断、及びがん遺伝子パネル検査(がんゲノム医療)も診療科と連携し、患者さんの必要に応じて検査やカウンセリングなどを行っています。

完全予約制で、原則は院内の他診療科から診察依頼を受けて予約日を調整しています。診療日は月曜日と水曜日で、月曜日は心臓外科外来、水曜日は乳腺センターの外来で診療をしています。

当院は、「地域がん診療連携拠点病院」「がんゲノム医療連携病院」に指定されています。

地方独立行政法人  
**総合病院 国保旭中央病院**

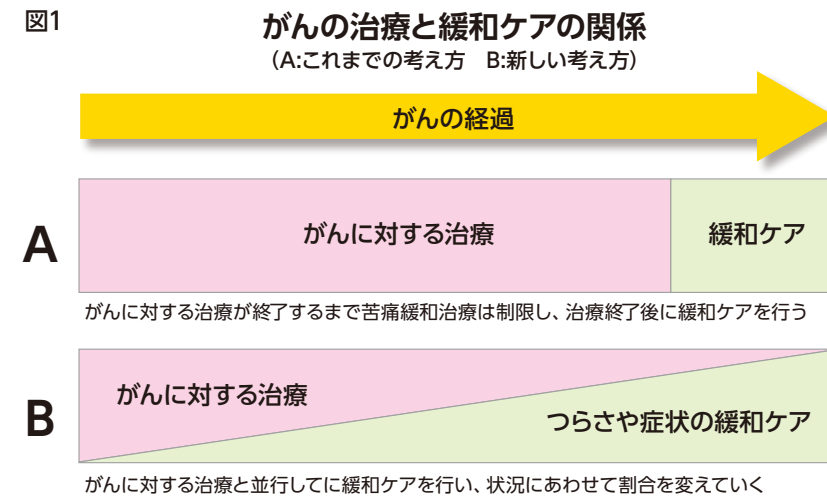
〒289-2511 千葉県旭市イの1326 TEL.0479-63-8111(代) FAX.0479-63-8580

www.hospital.asahi.chiba.jp

## がんリハビリテーション その3

### 「緩和ケアのがんリハビリテーションについて」

緩和ケアとは、重い病を抱える患者さんやそのご家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアとなります。がん治療中の時期であっても、積極的に緩和ケアを取り入れ、治療における様々な苦痛症状を軽減することも重要な役割となっています(図1)。



緩和ケアの時期に行われるがんリハビリテーションは、痛みやだるさなどに対してリラクゼーションや安楽な姿勢の提供、身体を動かしたい気持ちに対してストレッチやウォーキング、気持ちの落ち込みがあれば気分転換ができるよう屋外散歩やレクリエーションなど、症状が安定しているのであれば外出・外泊、自宅退院の支援など、希望に応じた生活が送れることを目標に取り組んでいます(図2)。また、家族と過ごす時間がよりよい時間となるようにご家族の希望に応じたケア・指導も行っています。

このように緩和ケアのがんリハビリテーションでは、患者さんの持ちうる能力を最大限に引き出すことで苦痛の緩和と安楽の提供、日常生活のよりよい工夫、気分転換などの精神的な支持を行い、患者さんやご家族の気持ちに寄り添いながら質の高い生活が送れるよう支援することで、「自分らしく生き抜く」ということを大切にしていきます。



## 緩和ケアチーム について

緩和ケアは、がん治療ができなくなってからではなく、がんと診断された初期段階から一緒に受けるケアです。当院には緩和ケアチームがあり、当院入院中のがん患者さんを対象に、がん診療に携わる医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、理学療法士、管理栄養士、公認心理師などがチームとなって、がん患者さんとその家族を支援します。

### 緩和ケアチームの主な役割は

- ①自分の病気を知り、治療法の選択を助けるケア
- ②痛み、痛み以外の症状を取り除くための方法を考える
- ③食事、排泄、入浴、夜間の睡眠などの日常生活を取り戻すケア
- ④こころのふれあいを大切に、心地よい環境を提供するケア
- ⑤がん治療の外見上や日常生活の悩みの相談
- ⑥医療費や仕事の相談
- ⑦ご家族へのケア などの支援をおこなっています。

緩和ケアは、主治医や担当看護師や周囲の医療スタッフにがんのつらさを伝えることから始まります。緩和ケアについて考えるタイミングは、早すぎることも遅すぎることもありません。一人で抱え込まず、つらさを話すこと、相談することが大切です。

### 「緩和ケアチーム」の 主な構成メンバー



## がん相談支援センター

### 「がん」について、お気軽にご相談ください

「がん診療連携拠点病院」には「がん相談支援センター」が設置されています。

当院では、社会福祉士・看護師が相談に応じます。必要に応じて、医師・薬剤師・管理栄養士等と連携して、お話を伺います。

### 〈相談例〉

- がんと言われて頭が真っ白になってしまい、誰かに話を聞いてほしい。
- どのように治療に取り組んだらよいのでしょうか?
- がんの治療ってどのくらいお金がかかりますか?
- 仕事を続けるのは無理でしょうか?
- 介護が必要になったらどうしますか?
- 緩和ケアについて知りたい。

など

セカンドオピニオンについては、「紹介患者センター」で相談に応じることができ  
ます。(医療機関検索・相談方法・費用・予約について)

## がん相談支援センター

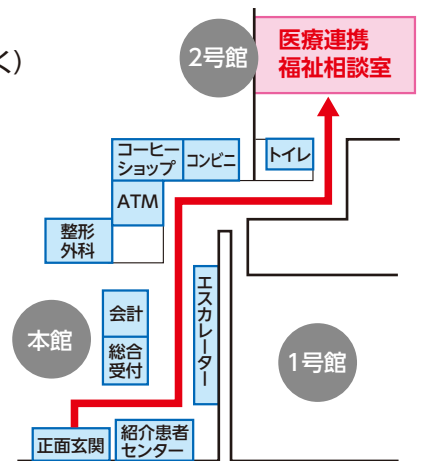
2号館1階 医療連携福祉相談室  
時 間/月～金(祝日・年末年始を除く)  
8:30～17:15  
連絡先/0479-63-8111(代)  
内線2150・2151

**相談は無料**です。

※なるべく予約していただくことを  
お勧めしています。

※当センターで医師と直接お話をする  
ことはできません。社会福祉士・  
看護師がお話を伺い、担当医に  
ご相談内容をお繋ぎすることは  
可能です。

### 案内図



## ハローワーク出張相談

ハローワークスタッフが当院で個別に就職のサポートをします。治療のために仕事を辞め、就職を希望されている方や、仕事の継続を希望の方、治療のため就職準備が難しい方などぜひご相談ください。

日にち: 毎月第2水曜日

時 間: 10:30～14:30の間で3人まで(事前要予約制)

場 所: 医療連携福祉相談室 費用: 無料

申込み: 前日の15:00までに医療連携福祉相談室で直接申し込むか、お電話でお申し込みください。



# 遺伝子診療科で できること

遺伝子診療科では  
以下の診療を  
行っています。



## ➡ 遺伝カウンセリングについて

主に遺伝性腫瘍に関わる遺伝カウンセリングを行っています。  
当院もしくは他院で遺伝学的検査を行い、遺伝性腫瘍と診断された方に対して、ご本人に対する今後の定期的な検診や、予防的な手術の適応について、医学的な情報の提供を行いその後の方針についてご相談をしています。また、ご家族へどのように伝えるか、ご家族が検査を受けるとしたらどのような検査で、どのような意味があるかについても相談していただくことができます。

## ➡ 遺伝学的検査について

遺伝性腫瘍に関わる確定診断のための検査、治療薬決定のための検査（コンパニオン診断と言います）を行っています。  
例えば、乳癌や卵巣癌などの発症リスクと関わる遺伝性乳癌卵巣癌（HBOC）の診断、PARP阻害薬と呼ばれる薬剤の適応を決めるBRCA1/2遺伝子検査があります。

遺伝性腫瘍以外の遺伝性疾患に関わる遺伝子検査については、患者さんがすでにかかっている診療科の医師と相談の上で、個別に対応しています。

検査の実施に際して、保険診療の範囲内で検査が実施できるか、自費診療扱いになるかについては検査ごとに異なるため、個別にご相談ください。

## ➡ がん遺伝子パネル検査について

2019年6月から保険適応となった「がん遺伝子パネル検査（がんゲノムプロファイリング検査と記載されている場合もあります）」の説明、

検査実施、結果説明を行っています。

がん遺伝子パネル検査の適応となるのは、それぞれのがんに対する「標準治療」とされている治療がない患者さん、もしくは病気の進行に伴い「標準治療」が終了している（終了見込みも含む）患者さんです。

「標準治療」をどのように考えるかはそれぞれのがんごとに異なるため、原則として当院で治療を行っている主治医の先生からの依頼を受けてがん遺伝子パネル検査に必要な外来を予約しています。

## ➡ 受診方法

遺伝子診療科の外来は完全予約制となっております。

遺伝学的検査の必要性や、がん遺伝子パネル検査についてご相談を希望される場合には、まずは普段から診療を担当している主治医の先生に相談をしてください。その上で、遺伝子診療科の外来予約日を調整いたします。

他院で行われた検査により遺伝性疾患と診断され、遺伝カウンセリングをご希望される場合や、家族が遺伝性疾患と診断されている状況で遺伝カウンセリングや検査を希望される場合には、**受診される前に**遺伝子診療科宛に電話で相談してください。受診する際に必要な情報や予約日をお伝えします。



遺伝子診療科 高橋 健太

# 当院の治療や医療のご紹介

多面的な治療で、患者さんを支えます

## 手術療法について

手術療法とは、がんを切り取って治す治療法です。がんを完全に治すための治療法として、ほとんどの場合手術療法が選択されます。

手術はからだに負担のかかる治療法ですので、これをなるべく軽くするためにいろいろな手術が開発されています。胃カメラなどの内視鏡による手術では、皮膚にメスを入れることなくがんを切除できます。また、腹腔鏡や胸腔鏡による手術では、従来の開腹や開胸による手術に比べてずっと小さな傷でがんを切除することができます。

現代の手術療法は、チーム医療として行われます。たとえば、手術に加えて抗がん剤や放射線を併用する場合は、外科・内科・放射線科が一緒に治療にあたります。また、術前の準備段階から術後の回復期まで、外科医・麻酔医・看護師・薬剤師・理学療法士など多くの職種の人たちがチームとして診療に加わり、患者さんが安全に手術療法を受けられるような体制が作られています。

外科 永井

患者さん



## 放射線治療について

X線や放射性物質が出すビームを利用して、手の届かないところに治療ができるという特徴があります。各診療科、画像診断部門と協力して問題を見つけ、解決を目指しています。

- 外照射
  - 一般的な外照射（ほぼ全身が対象、根治・緩和）
  - 高精度治療 IMRT 強度変調放射線治療（前立腺癌、頭頸部、子宮癌術後など）、定位放射線治療（脳腫瘍、肺癌、肝臓癌など）
- 腔内照射（婦人科腫瘍）
- 内用療法 ゾーフィゴ注（骨転移）、ゼヴァリン注（悪性リンパ腫）

放射線科（治療部門） 太田

## 緩和ケアについて

緩和ケアとはがんに伴う身体や気持ちの問題について、病気の治療だけでなく社会生活なども含めて全人的に患者さんを支える医療のあり方です。

世界保健機構（WHO）では、緩和ケアはがんと診断された早い時期からがん治療と平行して行われるべきものと言われています。

患者さんが自分らしい生活を保つことができるよう、医師・看護師のほか薬剤師・医療ソーシャルワーカー・理学療法士・管理栄養士が協力し、患者さんとご家族に様々な支援を行います。

緩和ケアセンター

## 化学療法センターでの治療について

「手術」「放射線治療」と並んで、がん治療の3本柱のひとつに「化学療法」があります。近年、新しい抗がん剤の開発や副作用を軽減する支持療法の進歩などにより、治療効果が向上し、標準化された化学療法が適用されるようになりました。このように**有効な化学療法を多くの患者さんが受けるようになり、生活の質（QOL）が重視されるようになったことから化学療法は外来治療が中心となり、安全で質の高い医療の提供の場として化学療法センターが設立され全科の治療がここに集約されています。**化学療法センターの病床数は40床（リクライニング8、ベッド32）あり、スタッフはがん化学療法看護認定看護師1名を含む看護師7名と医師1名が常駐しています。1人の患者さんを包括的に支えていく上での治療やサポートの質を高めるために医師、看護師、薬剤師、栄養士、歯科衛生士、リハビリ療法士によるチーム診療を行ない、すべての患者さんに満足していただけるよう心がけています。

化学療法科 中村